

# 読者のひろば

閉山後初公開  
訪れた三川鉱

高谷和生58歳公務員  
(玉名市)

大牟田・荒尾の近代化  
遺産一般公開に合わせ、

1997年の閉山後、初  
公開された三川鉱跡に出  
掛けた。大きな正門をく  
ぐると、そこには、戦後

最大の労働争議「三池争  
議」(1959〜60年)、

死者458人、一酸化炭  
素(CO)中毒重傷者1

514人を出した戦後最  
大の労働災害「三川鉱炭  
じん爆発事故」(196

3年)の現場が、そのま  
ま残されていた。

炭じん爆発のあった第

1斜坑は、有明海沿岸道  
路の開通で消滅したも

の、第2斜坑から巻き上  
げ機室に延びるレール跡

と斜坑人車、入坑する坑  
員に指示を出した巨大な

2階建ての練り込み場な  
ど圧巻の風景であった。

見学者に交じり、ネク  
タイ背広姿の元坑員がヤ

マ(炭坑)に敬意を表す  
る姿、献花台に飾られた

白菊の花に込めた鎮魂の  
思い。今も続くCO中毒

患者と家族の苦しみ。こ

の近代化遺産には、私た  
ちが終わらせてはいけな  
い、必死で乗り越えなけ  
ればならない、あまりに  
も多くのものがある。

炭坑の街から変わって  
いく荒尾・大牟田。元炭  
坑マンや三井の元従業  
員、多くの人々の声を今  
一度聞いてみよう。モノ  
である近代化遺産に、生  
の声をどのように重ねて  
いくのか。この記憶こそ  
が、この地のアイデンテ  
ィティーであり、宝物と  
して未来への道しるべと  
なると信じている。

「読者のひろば」への一般投  
稿、若者コーナーは450字程度、  
主張・提言は600字程度。◇欄  
外に郵便番号、住所(アパート・  
マンション名も)、氏名、年齢、  
職業(無職の方は元職でも可)、  
電話番号を明記する◇趣旨を変  
えず文章を直すこともあります  
◇原稿は返却しません。二重投

## 投稿される方へ

稿、採否の理由等の問い合わせ  
はお断りします。匿名は不採用。  
掲載分には薄謝を送ります。  
あて先は①郵送 〒860-  
8506、熊本市中央区世安町172、  
熊日「読者のひろば」係  
②ファクス 096(363)1268  
③Eメール  
hiroba@kumanichi.co.jp